

多治見市合流式下水道改善計画 第1回アドバイザー会議 議事録(概要)

平成17年1月14日(金)午後3:00～

於:多治見市役所3F 緑の会議室

出席者:(委員)坂崎委員, 加藤委員, 横井委員

(事務局)小栗水道部長, 水野下水道課長, 磯村副主幹, 沖本副主幹, 小林総括主査
日水コン 石坂, 稲井

■議題

- あいさつ及び辞令交付(事務局)
- 計画策定の背景、会議資料の説明(事務局)
- その他

■主な質疑

(下流への影響について)

委員:未処理下水を下流に放流しても、それほどの影響はないのでは。本当に合流改善施策は必要か。

事務局:やはり水を流す立場としては、下流の水質改善のために何らかの対策をとる必要があると考えています。

(分流化について)

委員:分流化を10年以内に達成しなければならないということか。

事務局:分流化については、相当な事業費がかかることや個人宅地内の排水管を污水用と雨水用とに分けるための工事が必要であり、分流化を10年以内に完了することは難しいと考えています。このため、他の手法(貯留管や高速沈殿池の設置等)により合流改善を考えております。

(貯留管について)

委員:貯留管は、どれくらいの大きさとなるのか。新設する貯留管は、中途半端な大きさのものにせず、住民が安心できるものを希望したい。

事務局:貯留管の規模についての詳細な検討はまだしていませんが、合流改善の目標が達成できる規模で、かつ、可能な限り費用のかからない施設を検討したいと考えております。

委員:小学校のグラウンドに貯留施設を建設できないか。

委員:学校敷地での工事は、授業や学校行事があるため、問題が多いと思う。

委員:愛岐道路の地下でもいいのではないか。

事務局:貯留施設については、学校の地下や道路の地下などを対象に設置場所を検討し、合流改善の目標を達成できる施設で、現状の技術で建設・運転管理が可能なものを検討したいと考えております。

委員:土岐川北岸の合流改善施策はどうなっているか。貯留施設として県立病院の駐車場を利用したらどうか。

事務局:土岐川北側は、整備効果を考慮し、池田下水処理場の処理施設の増強で対応したいと考えています。

(下水に流れるゴミについて)

委員:ゴミが、雨水吐口にたまるのか?

事務局:通常、雨水吐口にゴミが溜まることはありませんが、雨天時に土岐川に流れ出している可能性はあります。

委員:スクリーンを設置すると、ゴミが雨水吐室に溜まることになるのでは。

委員:このようなゴミが下水管に詰まり、平和町が浸水しやすくなっているのでは。

事務局:雨水吐室のスクリーンにたまったゴミをそこから直接回収する方法をとりますと、臭気等の問題が発生するため、除去したゴミをそのまま下水処理場に流せるタイプのスクリーンを考えております。詳細は今後、検討します。

(整備方針について)

委員:合流改善対策は、10年以内に実行しなければならないのか。

事務局:「3つの施策目標を10年以内に達成」という国の方針に沿って進めたいと考えています。そのうえで、経済性・実現性を加味し、まず第一段階としては、①ゴミを取る施設(スクリーン)の建設と、②処理場の運転方法を工夫し、既存処理場の施設を有効に活用すること、の2点を考えています。これらの実施により、少しでも放流水質をきれいにしていきたいと考えています。

(浸水対策について)

委員:平和町が今以上に浸水することにならないか。

事務局:浸水対策としては、今回の計画とは別に笠原川右岸ポンプ場が現在建設中であり、この施設が完成すると、現状よりも浸水被害が拡大することはないと考えています。